システム開発文書品質研究会（ASDoQ（アスドック））

Association of System Documentation Quality

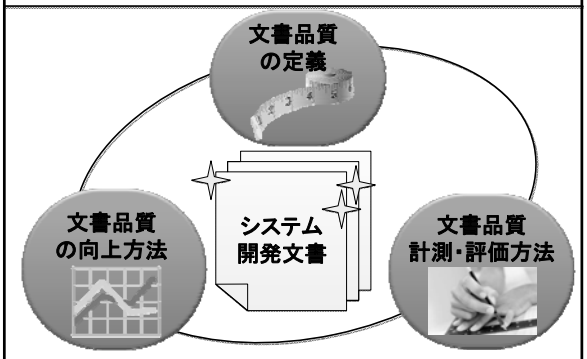
2011.9.1 14:50-17:30
SWEST13 ポスター発表

ASDoQ設立の目的

開発文書の品質を高めたい！

- 開発文書の品質について議論を重ねる
  - 開発文書品質の本質を追究する
- 開発文書の品質を定義する
  - 開発文書が持つべき特性は何か
- 開発文書の品質のメトリクスを作る
  - 品質を表す指標は何か
  - 品質を測る方法はどのようなものか

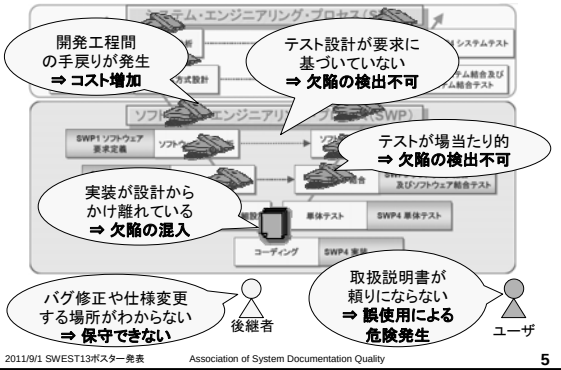
開発文書品質への取り組み



開発文書のメトリクスを作りたい!!

プログラム	開発文書
言語仕様	日本語文法？
– ANSI-C	– 開発文書用日本語？
コーディング規約	日本語規約？
– MISRA-C	– 制約日本語？
経路複雑度	文章の構造・構成・展開？
– サイクロマティック複雑度	– 章・節・項の深さ？
コードボリューム	文書量？
– 組込みソフトウェア開発向け品質作り込みガイド	– 文書の行数・ページ数？
計測可能な一側面の品質向上への道筋がある	計測や検証の難しさから品質との関連が明らかでない

文書品質が低いと多大な問題が生じます!!



開発にまつわる問題と文書品質

問題	原因	解決策
開発工程間の手戻りが発生	**次工程の作業に十分な情報**が書かれていない **設計の理由**が書かれていない	**文書化すべき事**を定義する **設計や定義の理由や背景**が伝わるように書く
要求の意図通りの実装がされていない	**要求と設計や設計と実装の関連**をつかむことができない	ブレークダウンの関係が分かる**文書構成や構造**を用いる
テスト設計が要求に基づいていない	要求仕様書に**テストを設計するための十分な記述**がなされていない	**文書の出力先**を意識して記述する
テストが場当たり的	**誤った方法**でテスト実施	**テストの前提や条件**などを記述する
バグ修正や仕様変更する場所がわからない	**要求と設計や設計と実装の関連**をつかむことができない **文書の全体像が把握**できない	**文書だけで理解**できる文書を書く 必要な部分が分かる**目次や概要を整備**する
取扱説明書が頼りにならない	記載情報が足りない 用語がわからない	**文書の対象者**を明確にする **対象者に適した用語**を用いる

課題

- **明確な文書とはどうあるべきかを定義する**
- **開発文書に書くべき事は何かを定義する**
- **文書に含まれる誤りを検出する方法を与える**

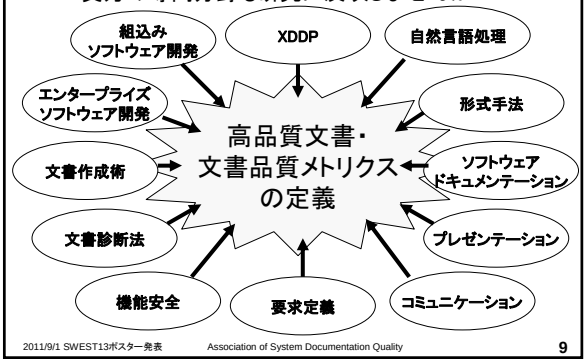
開発文書の品質向上による効果

- 文書の品質が向上する
  - 第三者に説明できる品質が加わる
  - 次世代に開発技術が伝わる
- 技術者の能力が向上する
  - 文書を書くことで考えが深まる
  - 文書で考えることで設計が緻密になる
- システムの品質と生産性が向上する
  - 開発工程の作業が着実に進む
  - 開発工程間での手戻りが低減する

非競争領域で協業する

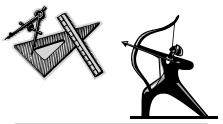
さまざまな専門技術を持ち寄った研究

貴方の専門分野も研究に反映しませんか？



研究成果（予定）

- 主たる成果物
  - 開発文書の品質の定義
  - 開発文書品質の計測方法
  - 開発文書品質の向上方法
  - 品質の高い開発文書例
- 期待する成果の活用例
  - 文書品質の計測・向上
  - プロセス品質検証の透明性向上
  - 技術者教育カリキュラムの開発・実施
  - アウトソーシング時の提供文書の品質向上
  - 文書品質計測プログラムの開発・改良
  - 文書品質改善ビジネスの発展



研究成果の
自由な利用を保証!!

研究会の概要

種別	任意団体
会員	個人会員，法人会員
会費	原則無料
条件	ASDoQ著作物の取り扱いに合意すること 著作権は，著作者に属する 著作者は，著作物の使用・複製・改変・再配布を認める
研究会	1回／2ヶ月 技術セミナ，作業部会の報告，運営打ち合わせ
作業部会	会員の興味や課題に合わせてテーマを設定

運営組織

（2011.8.25 現在、五十音順）

代表幹事	山本雅基（名古屋大学）
アドバイザ	高田広章（名古屋大学），田丸喜一郎（IPA/SEC）
幹事	栗田太郎（フェリカネットワークス） 塩谷敦子（イオタクラフト） 杉本明加（富士設備工業） 中澤達夫（信州大学） 藤田悠（長野工業高等専門学校）
運営委員	甲田勝（アヴァシス） 坂本佳史（日本アイ・ビー・エム） 平岡志磨子（CQ出版） 森川聡久（ヴィッツ） 山本修一郎（名古屋大学） 山本樹（信州大学） 山本佳和（デンソークリエイト）
事務局長	藤田悠（長野工業高等専門学校）

活動予定

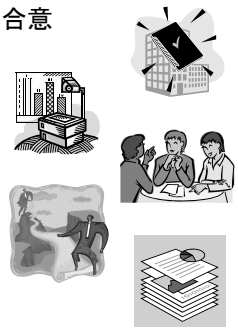
日程	イベント	場所
2011.7.11	ASDoQ第1回研究会(設立総会)	名古屋
2011.9.1-2	SWEST13 (ポスター発表、セッション)	下呂温泉
2011.11.10	ASDoQ第2回研究会	名古屋
2011.11.16-18	ET2011(講演)	横浜
2012.2.17-18	ASDoQウインターワークショップ	長野
2012.4	ASDoQ第3回研究会	名古屋
2012.6.12-14	SEA ソフトウェアシンポジウム(講演)	福井
2012.9	ASDoQ技術セミナー	名古屋
2012.11	JaSST東海(講演)	名古屋近辺

参加のメリット

- 文書品質メトリクスに対する深い理解
- 自社のビジネスへのフィードバック
- 研究成果の早期入手
- 研究会参加者の人材育成
- 人脈の形成
- 産業界への貢献
- ・・・

入会者に求めること

- 著作物取扱規則への合意
- 研究会への出席
  - 定例研究会
  - ワークショップ
  - シンポジウム
- 作業部会への参加
  - ロードマップ部会
  - 文書技術調査部会
  - 他団体交流部会
  - 人材育成部会

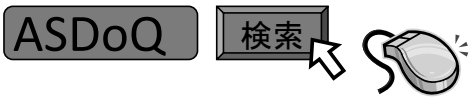


参加者募集中!!

入会申請, 問合せ先

Web: http://asdoq.jp/

E-mail: secretariat@asdoq.jp
(ASDoQ事務局あて)



SWEST13 セッションS45-d

(13:00～15:50、如月の間(E会場)にて)

テーマ:『新しい開発文書の時代を迎えて』

【チュートリアル】「誰がために開発文書を書く」

- 講師:山本 雅基 (名古屋大学)

【パネルディスカッション】「開発文書と私」

- コーディネータ:栗田 太郎 (フェリカネットワークス)
- パネラ:坂本 佳史 (日本 IBM)、塩谷 敦子 (イオタクラフト)、清水 吉男 (システムクリエイツ)、杉本 明加 (富士設備工業)、藤田 悠 (長野高専)、森川 聡久 (ヴィッツ)、山本 雅基 (名古屋大学)